

外国語学部国際関係学科 1 年次生
2009 年度夏期休暇中課題図書

国際関係学科・夏季休暇中の課題

「図書1点(800字以上)」および「映画ないしはドキュメンタリー1点(800字以上)」の2点について、それらの内容(内容:著者はなにを主張しているのか、何を主張の根拠としているのか)と自分の見解をまとめて、秋学期の最初の国際関係概説の授業で提出すること。

河原地 秀武

堤未果『貧困大国アメリカ』(岩波新書)
アルンダティ・ロイ『帝国を壊すために』(岩波新書)
小林多喜二『蟹工船・党生活者』(新潮文庫)
東郷和彦『歴史と外交——靖国・アジア・東京裁判』(講談社現代新書)
鳥飼 玖美子『歴史をかえた誤訳』(新潮文庫)

北澤 義之

塩川伸明『民族とネーション』(岩波新書)
広河隆一『パレスチナ [新版]』(岩波新書)
桜井啓子『現代イラン 神の国の変貌』(岩波新書)
中村政則『戦後史』(岩波新書)

鈴木 清巳

山本紀夫『ジャガイモのきた道』(岩波新書)
村井吉敬『エビと日本人Ⅱ』(岩波新書)
福島清彦『アメリカのグローバル化戦略』(講談社現代新書)
江藤隆司『“トウモロコシ”から読む世界経済』(光文社新書)

田中 義皓

NHKスペシャル『ワーキングプア』取材班・編『ワーキングプア:日本を蝕む病』(ポプラ社)
NHKスペシャル取材班(編著)『インドの衝撃』(文芸春秋社)
堤未果『ルポ貧困大国アメリカ』(岩波新書)

映画として:

アラビアのロレンス

丸山 珠里

明石康「国際連合 軌跡と展望」(岩波新書)
小松正之・遠藤久「国際マクロ裁判」(岩波新書)
多谷千香子「民族浄化を裁く」(岩波新書)
庄司克宏「欧州連合 統治の論理とゆくえ」(岩波新書)
最上敏樹「いま平和とは 人権と人道をめぐる9講」(岩波新書)

外国語学部国際関係学科 1 年次生
2009 年度夏期休暇中課題図書

正林 朝香

なだいなだ『民族という名の宗教—人をまとめる原理・排除する原理—』(岩波新書)
宮島喬『ヨーロッパ市民の誕生—開かれたシティズンシップへ—』(岩波新書)
中西寛『国際政治とは何か—地球社会における人間と秩序』(中公新書)
アマルティア・セン(東郷えりか訳)『人間の安全保障』(集英社新書)
東野真『緒方貞子—難民支援の現場から—』(集英社新書)

ストレフォード パトリック

ドキュメンタリー作品として
Fog of War (フォッグ・オブ・ウォー)*
Ghosts of Rwanda *
An Inconvenient Truth*, *
The Road to 9/11 *
13 Days *
Imperial Grand Strategy *
* 図書館一階 AV
* 3号館5階 LL 資料室

高原 秀介

加藤陽子『戦争の日本近現代史』(講談社現代新書)
五百旗頭真『日米関係史』(有斐閣)
明石康『国際連合』(岩波新書)
高坂正堯『国際政治』(中公新書)
村田晃嗣『アメリカ外交』(講談社現代新書)

吉田 豊子

毛里和子『日中関係—戦後から新時代へ』(岩波新書)
天児慧『中国・アジア・日本—大国化する「巨龍」は脅威か』(ちくま新書)
入江昭『〔増補〕米中関係のイメージ』、平凡社、2002年。
加々美光行『中国の民族問題』、岩波現代文庫、2008年。
アグネス・チャン『みんな地球に生きるひと』、岩波ジュニア新書。
アグネス・チャン『みんな地球に生きるひと Part 2』、岩波ジュニア新書

松川 克彦

カズオ・イシグロ『日の名残り』(中央公論社) (戦間期英国上流階級の対ドイツ観)
モーム『アシェンデン』(筑摩書房) (KGBの教科書ともなった英国諜報部員の活動)
ゴロウニン『ロシア士官の見た徳川日本』(講談社)
幣原喜重郎『外交五十年』(中公文庫)

外国語学部国際関係学科 1 年次生
2009 年度夏期休暇中課題図書

横山 史生

池上彰『45分でわかる！14歳からの世界金融危機』マガジンハウス、2009年、762円

本山美彦・萱野稔人『金融危機の資本論』青土社、2008年、1400円

サブプライムローン問題およびそれに端を発する金融危機に関する文献は枚挙に暇がないが、この2冊の1冊目で大きな流れを掴むとともに基礎的な知識を身につけた上で、2冊目で、マスコミでは語られないものごとの本質を見極める本格的な議論に触れてみてほしい。

林壮一『ドキュメント底辺のアメリカ人—オバマは彼らの希望となるか』光文社新書、2009年、760円

昨年のベストセラー堤未果『ルポ 貧困大国アメリカ』（岩波新書、2008年、700円）がオバマの登場を予言した書であったとすれば、本書は、オバマが大統領となるプロセスをリアルタイムで追いかけたもの。我々は、オバマを生み出したアメリカ社会の疲弊と民主主義の底力の両面を知る必要がある。オバマ・ウォッチ、アメリカ・ウォッチは、今後も必要である。

西川潤『データブック 貧困』岩波ブックレット、2008年、480円

アメリカにさえ、そしてまた日本にも、豊かさの中の貧困がじわじわと広がっている。一方では、先進国との圧倒的な経済格差の中で生存の危機に直面する途上国の人々がいる。それらの背景には実は、グローバリゼーション・市場経済の創出・拡大という、共通の歴史的・構造的な状況が存在する。現実を直視する熱い心と現実を分析する冷静な理性の双方を兼ね備えた著者ならではの、文字通り啓蒙的な1冊。

藪下史郎・荒木一法編著『スティグリッツ早稲田大学講義録—グローバリゼーション再考』光文社新書、2004年、700円

米国クリントン政権の経済顧問や世界銀行上級副総裁を歴任し、2001年ノーベル経済学賞を受賞した、コロンビア大学教授ジョセフ・スティグリッツ。そういう華麗な経歴の経済学者が、米国政府やIMFなど国際機関の世界経済戦略は途上国を含む世界の社会・経済を発展させるどころか、大きな不平等と格差を生む原因になっていると、痛烈に批判する。2003年来日時に早稲田大学で行われた特別講義の迫力と臨場感に、あなたも触れてみてください。

久保田賢一・浅野栄一編著『ライフストーリーでつづる国際ボランティアの歩き方』晃洋書房、2009年、1500円

世界のために何かしたいと考えている人に向けて、様々な経緯を経てそれぞれの海外体験を重ねてきた11人の研究者・専門家が、それぞれのライフストーリーを語った1冊。熱い心と冷静な理性を兼ね備えた人生のために。

外国語学部国際関係学科 1 年次生
2009 年度夏期休暇中課題図書

マコーマック ノア

1. 図書

伊豫谷 登士翁『グローバリゼーションとは何か』平凡社新書

現代世界における移動と越境を考える。

本橋哲也『ポストコロニアリズム』岩波新書

差別と不平等の系譜を描く。

リチャード・セネット『不安な経済・漂流する個人』大月書店

資本主義の市場原理が生活世界の隅々まで浸透している今日、どう生きるべきか？

姜尚中『暮らしから考える政治』岩波ブックレット

政治と日常生活の直接的なつながりを探る。

佐藤郁哉『暴走族のエスノグラフィー：モードの叛乱と文化の呪縛』（新曜社）。

京都南部の暴走族の生活と文化を描いた著名な民族誌。楽しく読める！たぶん？

ジョック・ヤング『後期近代の目眩—排除から過剰包摂へ』（青土社）

現代世界の諸相（監視社会、不安と恐怖の横行、フレキシブル化する世界経済）の相互作用を分析。

2. 映画

映画評論とは、映画の要約ではない！映画は娯楽の一種であると同時に、消費者からお金をまきあげるための商品でもある。また、映画は政治的なメッセージを普及させる媒体ともなる。あるいはまた、映画は作成した人や国や時代背景を反映する作品となることもある。皆様に考えていただきたい問題は次のようなものである：なぜ国際関係の学生にこれらの作品をすすめたのか？これらの作品には政治や経済やグローバル化や暴力や差別や戦争や平和や帝国主義に関してどのようなメッセージが込められているのか？ そのメッセージは誰によって誰に向かって発信されているのか？ 誰の声や語りが聞こえてこないのか？ 誰の視点が優先されているのか？ どのような世界観もしくは宇宙観が表象されているのか？

バベル

グローバル化をどう描いているのか？ 勝ち組・負け組と世界経済のつながり？

ランボー II

人種の表象は？ 外交政策としての暴力の美化？ 米国の視点ではない視点から見てみた場合どういう作品？

ランボーIII

9.11 以前のアフガンを舞台にした冷戦モノ。ランボーはソ連軍を襲う—「自由軍」すなわち今日米国などで俗に言う「テロリスト」と組んで!!?? 何で？ どういうこと？

外国語学部国際関係学科 1 年次生
2009 年度夏期休暇中課題図書

ランボーIV

タイで暮らしているジョン・ランボーは、ビルマの軍事政権（軍事政権はミャンマーと言います）に捕まってしまうキリスト教伝道師を救うために再び大量虐殺を犯す。

ドクター・ストレンジラブ

冷戦時代の核戦争をテーマにした古典！ 狂った軍司令官、さえない政治家、相互破壊に基づく安全保障…というか、テロの保障というべきか…

ナイロビの蜂

貧困国の人々を実験台に使う大手薬品会社の悪行を訴える作品。映画がよくないというわけではないが、小説の方がいい。

アンダーグラウンド

歌と音楽とダンスを通して 1940 年代から分裂する 1990 年代までのユーゴスラビアの物語を描く名作。

ブレードランナー

監視社会、疑似人間の倫理学、過剰人口、遺伝子組み換え実験等をテーマとした SF クラシック。現代・近未来型社会を考えるには？ ジョック・ヤングの『排除型社会』も参照。

ファーレンハイト 9・11

米の対テロ戦争の政治的背景を批判的に扱うマイケル・ムーアのドキュメンタリー作品。ノーム・チョムスキーの本とセットにも？

スワロウテイル

グローバルな移動の時代における別の日本。資本主義と移民と格差社会を考えるには？

アルジェの戦い

フランスからの独立を目指すアルジェリアにおける脱植民地化闘争の暴力を描く。非暴力の位置づけは？ 興味ある人はフランツ・ファノンの本もどうぞ。

アニマル・ファーム

解放→自由→独裁の過程を描く、一応共産主義批判のはずだが、別の見方もあるでしょう。小説はオーウェルの名作。

スターウォーズ I、II

現代世界の比喩として読むことができるのだろうか？ 誰が悪の帝国なのか？ 誰が自由軍なのか？ どうやって誰が決めるのだろうか？